

風しん第5期の予防接種についての説明書

1 ワクチン・接種回数・接種方法

風しんワクチン0.5mlを1回、皮下接種

※風しん第5期の予防接種ではMRワクチン(麻しん風しん混合ワクチン)を使用することと
されておりますが、メーカーによる自主回収により入荷が困難であるため、風しんワクチン
を使用します。

2 ワクチンの効果

風しんワクチンを接種することによって、95%以上の方が風しんウイルスに対する免疫を獲得でき
ます。

3 接種費用

無料(風しんの抗体検査結果において接種対象者以外の接種及び規定回数を超えた接種は有料)

4 接種にあたっての説明と注意事項

(1) 病気の説明

風しんウイルスの飛沫感染により起こります。感染し、発症するまでの期間(潜伏期間)は2～3
週間です。感染すると、軽い風邪症状に始まり、発疹、発熱、後頸部リンパ節のはれ等の症状が発
生します。発疹も熱も約3日間で治るため「三日ばしか」と呼ばれることがあります。合併症とし
ては、関節痛、血小板減少性紫斑病(患者3,000人に1人程度)、脳炎(患者6,000人に1人程度)
等が報告されています。

また、妊娠初期の妊婦が感染すると、心臓病・白内障・聴力障害等の障害を持った赤ちゃんが生
まれる可能性が高くなります(先天性風しん症候群)。

(2) 予防接種の副反応

接種後1週間程度、接種部位に赤み、発疹、発赤が見られることがあります(通常、自然に治り
ます)。

まれにアナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳炎、けいれん(ひきつけ)等の副反応が生じ
る場合があります。

(3) 他の予防接種との接種間隔

風しんワクチン(注射生ワクチン)を接種後に他の注射生ワクチン(水痘、おたふくかぜ等)の
予防接種を受ける場合及び、他の注射生ワクチンの予防接種を受けた後に風しんワクチン(注射生
ワクチン)を接種する場合は、27日以上の間隔を空ける必要があります。

(4) 接種にあたっての注意事項

明らかに発熱がある人(37.5℃以上)、急性の病気にかかっている人、医師が診察し接種不相当
と判断した人は接種できない場合があります。

(5) 接種後の注意事項

接種後30分程度は様子をみて、異常と思われる症状があるときは速やかに医師の診察を受けてく
ださい。接種当日は接種部位を清潔に保ち、入浴はさしつかえありませんが、接種部位をこするこ
とはやめましょう。また激しい運動もさけましょう。

なお、障害が残るような重い副反応が生じ、その健康被害が予防接種法に基づく予防接種による
ものと厚生労働大臣が認めた場合は、健康被害に応じた給付を行う健康被害救済制度があります。